

令和3年度 第2回港南区協働による地域づくり推進協議会 開催報告

日 時	令和3年10月4日（月）午前10時から正午まで
場 所	港南区役所6階 603号会議室
出席者	藤田会長、木村副会長、杉山副会長、若林委員、小室委員、穂永委員、石川（彰子）委員、小舘委員、塩田委員、守分委員、稲村委員、須田委員、栗原委員
議 題	1. 各団体が抱える課題について（意見交換） 2. その他

【協働による地域づくり推進協議会の概要】

区内の地域活動者や団体が、自治会町内会など身近な地域の中で連携できる関係を築き、地域での活動をより一層進めていくために、区内で活動する各団体の代表者と区役所と一緒に話し合い、情報を交換する場として、平成26年度から設置しています。

港南区連合町内会長連絡協議会 （藤田誠治 会長：芹が谷）



自治会町内会活動の担い手不足について、真剣に考えていく必要があります。また、連合未加入の46の自治会町内会に対しての加入促進や、ICT活用による自治会町内会の活動促進に取り組みます。

各団体の代表者が地区連合定例会などに出席し、情報の共有をお願いしたいと思っています。そして、環境問題への取組として、てんぷら油回収の活動にぜひ協力していただきたいです。

港南区社会福祉協議会 （木村妙子 会長：野庭住宅）

少子高齢化や人口減少等による福祉を取り巻く担い手不足に加え、コロナ禍による活動の中止で地域活動者のモチベーションが下がり、活動再開時に担い手として従事してもらえるのか危惧しています。

また、コロナ禍が収束したとしても経済活動がすぐに再開できるとは考えられず、ポストコロナの福祉・生活課題の増加及び多様化・複雑化の広がりについて注視する必要があります。



港南区民生委員児童委員協議会 （杉山静枝 会長：日野南）



担い手不足が一番の課題となっています。仕事や子育て、介護をしている若い世代の人にも担い手として活動してもらうには、活動しやすい環境をつくっていく必要があります。

孤独死が増えていますが、早く見つけてあげたいと思っています。そのため、近隣住民が異変に気づいたらすぐに周囲に知らせることが必要不可欠になっています。

港南区地区社会福祉協議会分科会 （若林諭 会長：永谷）



子育て、貧困、虐待等の問題は、孤立してしまうことが問題であり、近所で支えあうためのつながりが必要です。また、役員の担い手不足も問題となっています。自治会町内会が一番身近な任意団体なので、解決に向けて皆さんで話し合いをする必要があります。連合に入らない、自治会に入らないという未加入問題についても、まずはそれぞれの活動について理解してもらう必要があります。これらの「解決すべき課題」を解決するために行動したいと思います。

港南区スポーツ推進委員連絡協議会 （小室俊博 会長：日野第一）

今年度は任期満了に伴う委員の入れ替えがありましたが、約2年間の活動中止で事業の継承が薄れ、活動再開への不安があります。

各地区内での活動も同様に停止している中、スポーツ推進委員としての活動意識が薄れ、地域とのつながりをいかに維持するのかが問題となっています。

今後は、地域の活動や会議に出席し、連携を図っていきます。



港南区青少年指導員協議会 （穂永進 会長：日野第一）



コロナ禍による活動停止期間が長期に及んだことで、イベント等の経験者が減少し、活動の継承が困難になっています。来年新しい期を迎えますが、新人を中心に丁寧な研修や話し合いを通して4月から新たに実施していきたいです。また、来月11月のこうなん子どもゆめワールドでは、少人数で「ヒマワリリンピック」を行います。コロナ禍で以前同様の規模でイベントを行うのは難しいため、分散型のイベントを実施していきたいです。

港南区消費生活推進員の会 （石川彰子 会長：港南台）

今年度は、地域の見守り活動をより推進していくため、推進員と地域ケアプラザと消費生活総合センター3社の連携を強化していきたいです。消費者トラブルといった区民の困りごとに関する支援、さらに高齢者の相談支援等を連携して図っていききたいと思います。また、消費生活推進員の活動や存在を周知するために、各団体とも連携していくことを検討していきます。



港南区環境事業推進委員連絡協議会 （小舘とく子 会長：永野）



「家庭の食品ロス」や、粗大ごみに関するルールについて問題となっています。こうした課題を解決するためにも、地域の皆様と知恵を出し合い、相談していこうと思っています。

今後については、コロナ禍でイベントや環境事業推進委員としての活動ができなかったことをふまえ、区役所などのイベントに協力して活動していきたいと思っています。

港南区シルバークラブ連合会 （塩田良英 会長：野庭団地）



港南区は、169の自治会町内会のうちシルバークラブの数が72と、横浜市の中でも低い結成率になっています。今後は担い手の減少やクラブの解散をいかに止め、地域に貢献し、地域を支える団体づくりをすることが課題です。ワクチン接種申し込みの手助けなど、コロナ禍における課題解決を通して生まれた新たな絆を活かし、少しずつ仲間づくり、会員の増強につなげていきたいと考えています。

港南区食生活等改善推進委員会 （守分光代 会長：永野）

会員の高齢化、担い手不足が課題となっています。活動内容を知ってもらうためにも、自治会町内会館の掲示板に会員になるための養成講座のチラシを掲載していただく依頼をしました。

また、自治会町内会への活動として、災害関係死の要因となりうる「災害時の食」が課題となっています。日頃の健康づくりが重要であり、食に対して各自治会町内会でも考えてもらうため、ヘルスメイトとして啓発活動をするめていきたいと思っています。



港南区工業会 （稲村直之 会長）



コロナ禍での活動の自粛が課題として続きましたが、マスク不足時の販売やワクチンの職域接種等に対応することで会員やその家族の皆さんの不安減少に役立てました。

会員の減少に困っております。高齢化や、コロナ禍の廃業等による会員の減少を懸念しています。また、この先の工業会には若い人が必要不可欠ですので、後継者の会議等への参加を期待し、頑張っていきたいと思っています。

港南保護司会 （須田次朗 会長）

担い手の確保が課題となっています。家族からの理解が得られず、辞退する人がいます。だからこそ、保護司の活動とはどういうものなのかPRしていく必要があります。

また、コロナ禍でICT化を進めようとしています。Zoomなど苦手意識のある方もいますが、便利だということを理解してもらうための活動をしていく必要があります。



港南区役所 （栗原敏也 区長）



約2年間地域活動が思うようにできず、地域・団体との関係の希薄化が課題となっています。こうした状況の中、顔を合わせて意見交換し、まちづくりすることの大切さを再認識しました。

そのため令和4年度は、コロナ禍で得たことを活かし、これまでの集まってできないときはオンラインでやる（AorB）という形だけではなく、リアルとオンラインの併用（AandB）といった形を事業の基本とし、協働による地域づくりを進めていきます。

◆委員からの意見、感想【意見交換】（抜粋）

【ＩＣＴ関係】

- 区単位の団体の会議でもＩＣＴを活用してほしい。
- ＩＣＴを進めるにあたり、苦手な人もいる。そういう人たちの意識をどう変えていくのか。
- 講演、セミナーなど配信内容により YouTube や Zoom 等、適した方法の選択が要る。

【担い手】

- 担い手はどうしても高齢者が多くなってしまう。
- 担い手の確保のためには、役員になる人のやりがいを見いだすことを大事にする必要がある。
- 子供中心の活動をすることで親がついてくるため、そこで担い手の確保を図っている。
- 入っていて良かったと思える経験や活動をさせていくことが大切。
- 若い人が担い手として活動しやすい団体、組織等の環境を作る必要がある

【その他】

- 今回拳がった課題について、共通していたものを詰めて話していきたい。

当日の様子

